

着実に広がる景気回復のすそ野

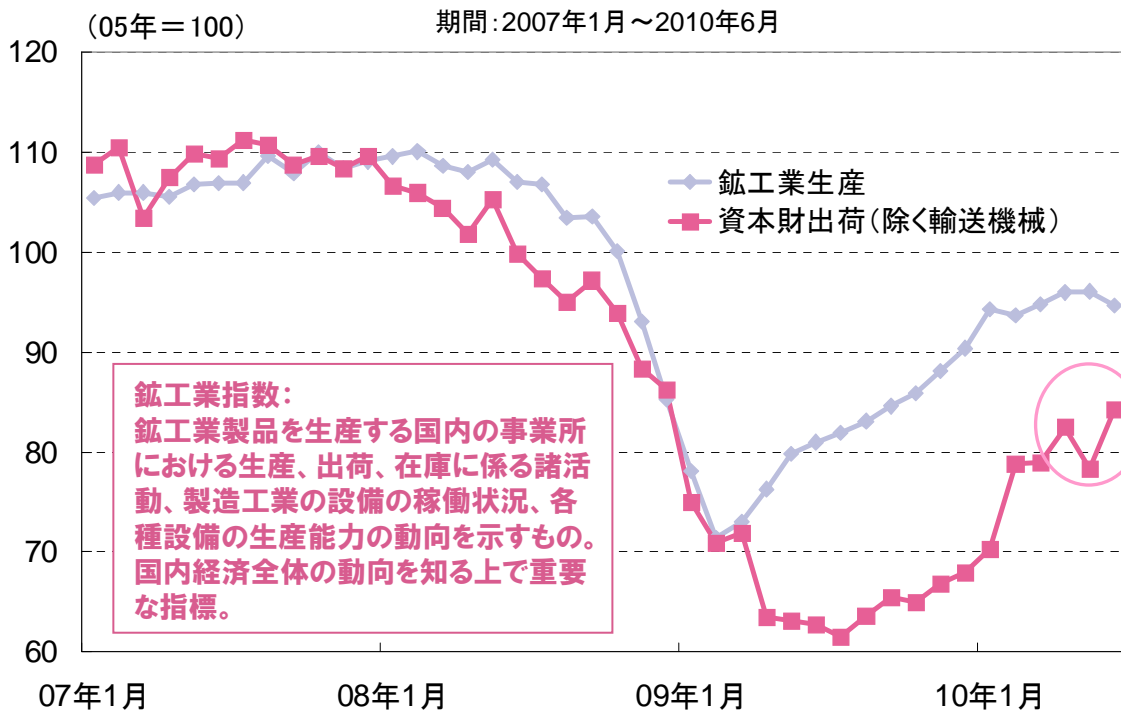
6月の鉱工業生産は、前年同月比+17.0%と伸び率の低下傾向が続き、前月比では▲1.5%と4か月ぶりの減少となりました。この結果、四半期ベースで見た4-6月期の生産の伸び率は、1-3月期の前期比+7.0%から同+1.4%に減速し、生産は、昨年2月を底とした急回復局面から、緩やかな巡航速度の回復局面へと移行したことが示されました。

その一方で、鉱工業指数を構成する指標の一つである資本財出荷(除く輸送機械)は、前月比+7.5%と大幅に増加し、四半期ベースでも、1-3月期の前期比+14.3%に続いて、4-6月期も+7.4%と高い伸びとなりました。機械や装置など工場設備を多く含む資本財の出荷動向は、設備投資の動きを表すものとして注目されていますが、この指標の高い伸びが続いていることで、設備投資が底入れしつつある可能性が高くなってきました。

設備投資の底入れは、景気回復が国内経済の幅広い分野に広がってきたことを示し、回復の動きがより自律的に、安定的になることを意味します。生産の回復ペースが巡航速度に落ち着き、景気回復のスピードが緩やかになることが見込まれる今後の局面においても、設備投資の改善が順調に進むとすれば、景気回復のすそ野は広く、景気が安定的に下支えされることが期待できます。

改善が続く資本財の出荷は、日本経済にとって明るいニュースとすることができるでしょう。

鉱工業生産と資本財出荷(除く輸送機械)



(出所)経済産業省

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。